

釧路湖陵高等学校における実践内容（アンケート回答）

1) 調査体験プログラムにおける、わかりやすさ、おもしろさ等

いずれのプログラムにおいても、説明や資料はわかりやすく、プログラムはおもしろいと回答があった。特に沢の生き物については、高い評価であった。

テーマ	説明のわかりやすさ (平均値) (※1)	配布資料のわかりやすさ (平均値) (※1)	プログラムのおもしろさ (平均値) (※2)
昆虫	4.44	4.56	4.28
沢の生き物	4.91	4.82	4.91
エゾジカ	4.00	4.70	4.00

※1) 5段階評価で回答：わかりやすい←5・4・3・2・1→わかりづらい

※2) 5段階評価で回答：おもしろかった←5・4・3・2・1→つまらなかった

2) おもしろかった体験

《昆虫》

- ・昆虫の統計、たくさんいて面白かった。
- ・トラップの回収
- ・昆虫のソーティングが、あまりできない体験ができたので面白かった。
- ・虫のトラップを回収して並べたりするのが楽しかった。
- ・種類別に昆虫を並べて、自然林、人工林、草地で比較したこと。
- ・昆虫の回収
- ・森林や草原へ行って昆虫を捕ったり植生を調べたこと。
- ・トラップを使って虫を捕ることが初めてだったので、とても面白かった。
- ・トラップにかかった昆虫がどの昆虫なのか見分けることが楽しかった。
- ・回収した虫たちを種類ごとに仕分けしたこと。
- ・トラップにかかった昆虫を種類ごとに分ける作業。
- ・捕まえた昆虫を種類別に分ける体験。
- ・植生の調査
- ・森林の中を1m四方に限定し、植物の被度や種類を調査する体験。
- ・場所によって見られる昆虫に差があることを実際に採集して知れたこと。
- ・昆虫を仕掛けてあったトラップで捕まえて数を数えたこと。
- ・採集した昆虫を並べる時に、きれいな色の昆虫が見つかったこと。

《沢の生き物》

- ・湖畔で魚を獲ったこと。
- ・魚を網で捕獲し触れ合うこと。また、沢を登る体験は周りの景色がとてもよく、良い経験になった。
- ・タモ網を使って魚を獲ったり、湖で魚だけでなくエビや昆虫を獲ったこと。

- ・達古武湖に腰のあたりまで浸かり魚を捕ったりヒシをひっぱったりしたこと。
- ・全ての体験が自分で生き物を捕ることで、普段やないことだからとても楽しくおもしろかった。
- ・魚を網を使って捕獲すること。
- ・川や湖畔に入って活動したこと。胴長を初めて着て、直接水に入って様々な活動ができるので面白かった。
- ・最初から最後まで面白かったが、その場所ごとに生息する生物や違いを見ることが面白かった。また、自分の足で自然を体験しつつ歩いてよかった。
- ・班の3人と協力して、かなり大きいアメマスを捕獲したこと。
- ・ニホンザリガニの生息する環境の調査
- ・実際に沢の中に入り、魚やザリガニを捕まえたこと。

《エゾジカ》

- ・山ではクモやハチにあまり騒がなかった。
- ・樹皮はぎがあるかないかを確かめる作業が面白かった。
- ・樹皮はぎの跡を見て、エゾシカも考えて樹皮を食べていることがわかって興味がわいた。
- ・花の数や笹の背丈を調べた体験。
- ・コドラート調査
- ・コドラート調査、森林内を歩くこと。
- ・森を歩いたこと。
- ・実際に湿原に見に行くと鹿のふんや足跡など実物を見れたし、鹿が自然に与える影響なども見れて面白かった。
- ・木を見て樹皮はどうなっているか調査した体験。
- ・ササの丈や花の本数を数えて、その場所の植生を調べた事。

3) おもしろいと思った話

《昆虫》

- ・人工林と自然林の生物の違い
- ・何事もやろうと思ってやらなければ、出来るようにならないという話
- ・釧路湿原の針葉樹林は人が同じ時期に植えたので高さが揃っているという話など。
- ・トラップの仕組みや工夫についての話がとても面白かった。
- ・環境によって住んでいる昆虫が違ふこと。
- ・人工林と自然林における昆虫の違いの話
- ・昆虫を捕らえるためのワナがとても豊富だったこと。
- ・自分が思っていた以上にトラップに虫がかかっていることが驚いた。人工林と自然林は、やはり違うということを知ることができて面白かった。
- ・定性調査と定量調査の違いが面白かった。
- ・同じ森でも区域によって住人である虫が様々であるということ。
- ・オサムシ等は、羽を退化させ捕食者から逃げるため足の動きが速くなったこと。
- ・人工林の中と自然林の中に棲む昆虫の数の違い。
- ・トラップの話
- ・マイマイカブリの頭が細長い理由は、中心に向かって小さくなるカタツムリを残さず食べるためという話。
- ・木の根あたりにあった草の生えていない場所がシカが通る獣道だということ。
- ・シカの有無によるササの高さの差
- ・草地よりも自然林などのほうが種類が豊富だが数は少なめだということ。
- ・森に生えている植物を見て、シカの数や様子が分かったこと。

《沢の生き物》

- ・湖畔と沢では生き物にも様々な違いがあるということ。

- ・木の生存競争についての話
- ・湿原に生息している植物と森に生息している植物の違いを知ること、植物を見ただけでどのような環境かがわかるという話
- ・沢にいる生物（主に魚）と湖にいる生物は、全く別の種類が存在しているということ。
- ・魚の特徴や下流と源流部での植生の違いなど。
- ・魚やニホンザリガニの特徴についての話。
- ・ヤツメウナギの名前の由来が面白かった。
- ・湧水の大切さの話聞いても体験しても感じ、美しいなと思った。貴重な場所でもあり、貴重な生物の住処を守るためにも自然を守っていくことが大切だと思った。
- ・川では魚を捕まえることが難しいということ。
- ・ハンノキはミズナラ等の木より弱いので、ミズナラ等が住めない湿地に適応して育っていること。
- ・魚やザリガニが身を潜めている場所やその捕まえ方が、なぜそうなかがなるほどと思った。

《エゾシカ》

- ・捕まえるためには対象をよく知らなければならぬ。
- ・鹿の角についての話。
- ・人が夜に銃をもてないことを知っているかのように移動することを知れて面白かった。
- ・鹿対策の効果があらわれてきていること。
- ・シカは形成層が好きなので樹皮がつるつるで薄いアオダモなどの樹木を食べているということ。
- ・エゾシカが脱走して、もとの生息地へ必ず戻る話。
- ・シカが夜と昼でいる場所が違うという話。
- ・鹿は全ての種類の樹皮を食べるのではなく、食べやすい木の樹皮を食べることを知ったこと。
- ・シカはどのような特性があり、どんなものを食べるか。
- ・エゾシカがワナから逃走しても次の年には、また同じワナに引っかかること。

4) 調べてみたいこと

《昆虫》

- ・色々な事についての上限を知りたい（境目など）。
- ・湿原の植生の種類を実際に見ながら調べたい。
- ・飛ぶ虫の調査をしてみたい。
- ・今回のトラップではない別の方法でもやってみよう。
- ・木を植えること
- ・森林にいる鳥とかを調べてみたい。
- ・季節によって植生や動物の生活などがどのように変化していくかを調べてみたい。
- ・他の種類の昆虫（飛べる昆虫等）も調査してみたいと思った。
- ・ワナの仕掛け方、作り方。
- ・地表性昆虫以外の甲虫の生態について。
- ・菌類について。
- ・虫を殺さずに環境を調査する手法。
- ・虫を集める調査をもっと多くやって確実なデータを知りたい。
- ・湖にいる微生物の観察。
- ・今回行ったのとは別のトラップを仕掛けたい。

- ・自然の調査がとても大変であることがよくわかった。この調査を続けている人たちに感謝したいと思った。

《沢の生き物》

- ・湖畔でもっといろいろな種類の魚を探したい。
- ・プラナリアの捕獲、実験、ハンノキの調査、対処
- ・湖に住む魚類や昆虫、植物の関係について知りたい。
- ・もっと達古武湖の奥まで行って魚を捕ったり自然の大きさに触れたい。
- ・沢には他にどのような生物が住んでいるのか、もっと詳しく調べてみたい。
- ・沢付近に生息している植物について。
- ・湧水がとてもきれいと思ったので、水質調査をしてみたい。
- ・湧水の周りの環境について詳しく調べたい。湧水の中に含まれる栄養や土壌について調べ、ニホンザリガニの住みやすい場所について深く知りたいと思った。
- ・川の源流まで上って川が生まれる瞬間を見てみたい。

- ・電気ショックによる魚を捕まえる方法
- ・他の水生生物の調査

《エゾジカ》

- ・森の動植物の探し方
- ・他にはどのような手法で調査をしているのか気になった。
- ・湿原が今後、自然のままにしたらどのようなようになるのか。

- ・動物などの個体数の調査。
- ・もっと森林内を探索してみたい。
- ・罠いワナの調査。
- ・鹿がワナに入るところを見たり、鹿の通る道を実際に通ってみたいと思った。
- ・ダニの調査。どこにどんな種類がどのくらいいるのか。
- ・森を一回歩いたら何匹のダニがつくのか。

5) 自然環境の科学的な理解に大事と思うこと

- ・自然環境の科学的な理解に大事と思うこと
- ・今までの知識を全てはらって1つ1つを深めようとする。
- ・興味を持つことが一番大切と思う。
- ・意識的に自然を知ろうとすることが大事だと思った。
- ・実際に自分の足で現地に行き調査すること。
- ・話を聞くだけでなく、自分で現地に行ってみることが大切だと思った。
- ・自然林を切りすぎないこと。
- ・周りにいる動物の変化や植物の変化を調べる。
- ・とにかく色々な調査をすること。目で見てわかることだけでなく、実際に数値化することで、どのような違いや変化があるのかを調べる。
- ・まずは自然のことをよく知ることが大事だと思った。
- ・実験を何度も繰り返す。
- ・まずは興味を持つこと。
- ・より多くのデータを収集すること。
- ・実験や調査
- ・抜けのない調査とあきらめない根気。
- ・定性的、定量的にデータを集め、何度も調査し誤差をなくす。
- ・実際に自然に触れ合って先駆者の意見をきくこと。
- ・各生物のつながりをそれぞれの立場から考えること。
- ・その環境の成り立ちや動植物の相互関係を理解すること。
- ・まずは実際に森に行ってみて自然環境を身近に感じることが大事だと思った。
- ・地道にデータを集める。

- ・正確な調査を繰り返して、その結果を元に考察すること。
- ・普通の森林との遷移を理解して植物の生活に適しているかなどを調べる。
- ・理科系の科目をしっかりと学ぶ。
- ・より多くの精密なデータの収集。
- ・生物の全てを知り、それを活用すること。
- ・自分の足を実際に運ぶこと。
- ・生物どうしのつながりを知ること。
- ・グラフや表を用いて説明すること。
- ・図やグラフを書くこと。
- ・自然と接触すること。
- ・生物について理解すること。生物一種においても自然についてたくさんの情報がつまんでいると感じた。
- ・教科書などで予備知識をつけ、実際に見たり体験したりすること。
- ・人間ができる範囲で様々な道具を使って環境を調査し実験結果が目で見えてわかるものにする。
- ・実際に現場に行き、環境の状態を自ら感じ考えること。
- ・そこに生息している植物や生息している動物の特徴を知ってから、生息している原因は何なのかを調べる。
- ・地道な調査活動。
- ・科学的に理解しきるというのは自分には無理と思うが、少しでも理解するには、過去を知り、現状との違いを見つけることが大事だと思う。
- ・自然が自分には関係ないと思わずに、自分から積極的に調査をおこない、まとめて発表すること。
- ・調査した情報を整理すること。
- ・その環境の地質やそこに住む生物の変化

6) 湿原保全や自然再生を行う上で大切と思うこと

- ・まず知ること。そして自分で考えること。
- ・個人個人のやる気。
- ・先のことを考えつつ、湿原と関わっていくことが大事だと思った。
- ・人工林と自然林では生態系に大きな違いがあったので、人間が手を加えすぎないことが大切だと思った。
- ・まずは湿原について興味を持って、よく知ることが大事だと思った。
- ・植物や昆虫をむやみに大量に採取しないこと。
- ・人が自然に手を加えすぎないようにすること。
- ・湿原自体を保全するためには、その周りの環境から改善していかなければならないということ。

- ・湿原に対して興味を持ち、湿原のことをよく考えることが大切だと思った。
- ・1人1人が湿原に対して関心を持つこと。
- ・自分達が自然にやってあげてるとは思わないようにすること。
- ・釧路地域に住む人の湿原へのイメージを変えていくこと。
- ・そのような活動に興味や関心があること。
- ・自分達の意識。
- ・まず住民の意識を変える必要があると思った。
- ・湿原の保全は環境と文化の共生にも関わると思う。人間が進歩する中で環境への気配りができるなら保全できると思う。

- ・人工林を自然林に近づけ、自然を主体とした人間の生活づくりをすること。
- ・自分たちも湿原が身近にあるということを意識して、日常の生活を見直していくこと。
- ・地域の住民にもっと湿原を身近に感じてもらうため、このような活動をもっと盛り上げていくこと。
- ・地域の人の関心を高める。
- ・地域住民も湿原の状況を知って継続して再生事業に取り組むこと。
- ・自然の回復力に委ねる。
- ・色々なことに興味を持つこと。
- ・植樹や自然に親しんで何が必要かを考えること。
- ・人間が行う環境破壊を止める。
- ・湿原を実際に見て知ること。
- ・湿原の環境は互いに影響し合っているのだから、視野を広げて自然を見ること。
- ・シカを減らし、貴重な植物を増やす。
- ・その地域の生態系を壊さないこと。
- ・湿原について知ること。
- ・環境を理解し活動すると共に、人々に情報を活発に発信していくこと。
- ・湿原だけでなく、その周りの森やそこに生息している動物も守っていくこと。
- ・生物の多様性が図られる中で、全ての生物を平等に見て、人間がこれ以上環境に危害を加えないようにすること。
- ・自分たちのような若い世代の人が湿原、自然再生に興味を持ち、そのような取組みへ積極的に参加すること。
- ・まず最初に、地域の人たちの関心を高めること。
- ・この地域に住む私たちが釧路湿原に興味を持つこと。
- ・現在の自然環境に合わせて保全する方法を変えていくことも大切だと思った。また、ある生物や生態系を守りたいのならば、その生物を取り巻くもの全てを見直すことが大切だと思う。
- ・科学的な調査の結果から、湿原のこれからを考えて活動すること。
- ・1人1人が自然に対する意識を再確認し、小さなことでもよいから全員が自然に貢献するために行動を変えていくこと。
- ・湿原のことをしっかりと学んで、現状がどうなっているのかを知ること。

7) 意見、感想

- ・もっと湿原に触れたい。
- ・登山きつかった。
- ・自然をたくさん感じられて楽しかった。
- ・とても疲れたが、良い体験ができた。
- ・色々な動物を調べる体験ができて楽しかった。森林を歩いている時に周りの植物の説明もしてくれて楽しかった。
- ・普段の学校生活では決して体験できない貴重な体験をすることができた。自分達の周りの環境は自分たちが守っていけるよう、これから心掛けていきたい。
- ・貴重な体験をさせていただいた。
- ・貴重な体験ができて良かった。
- ・大変貴重な体験だった。
- ・貴重な体験をさせていただいた。
- ・釧路湿原の保全について考える良い機会となった。
- ・とても楽しかった。
- ・今回の巡検で、湿原をより身近に感じる事ができた。湿原の現状を、いろんな人に発信できれば良いと思う。
- ・普段、緑に囲まれることはあまり無いので、新鮮で楽しかった。また、木々をよく見てみると、それぞれ個性があることに気づき面白かった。この巡検に参加し視野が広がった。
- ・大変だったが勉強になった。
- ・貴重な体験だった。
- ・声が聴き取りずらかった。
- ・展望台の景色がとてもきれいでした。
- ・本当に楽しく良い体験になった。
- ・疲れたが、とても楽しく、知らないことを多く知れてよかった。
- ・何をしても、とにかく美しさを感じた。今まで身近にあったが具体的には全く自分は湿原を何も知らないのだと感じた。その無知の自覚ができた。
- ・普段できないような体験をすることができて本当の楽しかった。
- ・今回の体験を通じて、今まで地図や資料だけでしか見てこなかった湿原を身近に知ることができ、とても良い経験をした。
- ・疲れはあったが、楽しかった。
- ・とても楽しかった。あまり湿原について考えていなかったが、少し考えるべきだと思った。
- ・釧路に住んでいても、あまり湿原に関わる事がなかったから、今回の経験はとても新鮮で楽しかった。
- ・非常に楽しく学ばせていただいた。実際に目で見て耳で聴き、体験するというのは貴重な体験であったと思う。近くに住むものだからこそ出来ることを考えていきたい。
- ・あまり自然に触れていない人間だったが、今回、たくさん自然に触れ、自然を守る大切さを知った。
- ・とても感動した。自分ももっと環境について勉強して将来の選択肢にしたい。
- ・身近な環境を守るには、実際に触れ、見るが一番良い方法だと思った。今後もたくさんの人の手で釧路湿原の保全や自然再生に取り組んでいきたい。